

各諸課題に対する事務局としての活動可能な取り組み案

コンソーシアム事務局

分科会1：生徒・保護者へのIB教育に関する情報提供

<分科会で挙げられた課題解決のための具体的な方策>

・地域におけるIB認定校の牽引的な役割

←これまでに各学校で行われていたIBの説明会をプログラム対象別に整理したうえで、内容を各学校間で共有できるようにする。また、IB認定校に対して、地域における牽引的な役割（IB啓発や授業公開等）を担ってもらうように要請する。・・・*①

・大学に対するIBへの適切な理解の促進

←大学側がDP生の能力を入学後にどのように活かしているのかをコンソーシアムを通じて発信する。また、その動きが2020年入試改革の文脈の中でどのように位置づけられているのかを整理する。・・・*②

・保護者向けのIB理解啓発セミナー等の実施

←各IBプログラムがどのような点において新学習指導要領と親和性があるのかをコンソーシアムとして整理したうえで、保護者を含め一般にも共有する。また、その他のIBに関する質問に対応したFAQページをコンソーシアムのサイト内に設ける。さらに帰国生向けの合同説明会においてIBに関する情報を共有するブースを設ける。・・・*③

・奨学金情報の共有

←奨学金を提供する組織の情報収集と内容の整理をコンソーシアムを通じて発信する。また、海外進学に関する情報をホームページ上に設けたり、海外大学進学に関するセミナーの告知も推進していく。・・・*④

<事務局案>

*①コンソーシアム協力校・機関における情報交換会の実施（IB認定校の牽引的な役割を促す）

*②シンポジウムのテーマの1つとして高等教育（IB修了生の大学の受け入れ）を取り上げる

*③生徒・保護者向けの学校説明会・相談会でのIB啓発活動の実施

今年度予定：海外子女教育振興財団主催 学校説明会・相談会へのブース参加

【名古屋：7/26（金）】 【東京：7/30（火）*東京では講演予定】

*①②③IBに関する好事例の共有

（例：IB認定校での教育実践紹介、ACファシリテーターの紹介、IB修了生の大学での活躍紹介等）

*④奨学金等の情報については、HPの各種支援ページにおける情報の充実を図る

分科会 2：IB に関する財政支援策

<分科会で挙げられた課題解決のための具体的な方策>

- ・大学との連携：大学が参加する IB 生のリクルートフェア等のイベントを有償で開催
- ・企業からの寄付：企業から寄付もしくはイベント等への協賛などのスポンサー費を集める
- ・IB 認定校との連携：各学校における CAS 等の活動と連携して寄付を集める
- ・互助会：IB を受ける生徒を持つ家庭から 500 円～1,000 円ずつ集める
- ・コンソーシアム事務局の内において財源支援の組織を設けることへの提言

<事務局案>

- ・財政的な支援スキームに関する具体的検討（例：支援に向けたプロセス策定等）を関係者協議会において進めていく

分科会 3：自治体への IB 導入に必要な資料提供

<分科会で挙げられた課題解決のための具体的な方策>

- ・教育委員会の合意形成に向けた各種支援策の明確化（IB 校支援パッケージの提示）
 - IB 等教育推進の姿勢の明確化（新学習指導要領の趣旨に基づく教育であることの明示）
・・・*①
 - 国内大学に対する DP 入試枠拡大の働きかけ・・・*②
 - 教育課程の特例申請の負担軽減（IB の内容と学習指導要領の整合性の包括的な認証等）
・・・*③
 - IB の確実な実施に向け必要な予算と教員定数の確保・・・*①
 - 教員研修の支援施策の実施（WS の割引、関心校・候補校教員の受講料無料化など）・・・*①
 - IB 推進支援機構（仮称）の設置による取組
- ・これからの社会に求められる資質・能力の育成における IB 実施の意義の提示・・・*③

<事務局案>

- *①各種支援策については、パッケージ内容としてどのような枠組みが適当であるかを関係者協議会において議論を継続する
- *②高等教育に関するセミナー・イベント等の開催（IB スコアを活用した入試事例の認知拡大）
- *③IB 教育と学習指導要領の整合性や、IB とグローバル人材等に関する文献・研究等を広報活動を通じて広く関係者へ啓発していく

分科会4：IB教員養成における課題

<分科会で挙げられた課題解決のための具体的な方策>

・IBワークショップの定期的な開催と参加促進策

←IBワークショップの参加はIB導入予定校の教員にとって、必須であり、最も取り組みやすいものである。このため、従来の実施方式を一部修正し、地方の中核的な都市の大学などで一定の期間、さまざまなセッションを組み合わせる開催し、費用的な負担（参加費、旅費、滞在費など）を抑えて、複数のセッションに参加できるようにする。その際、参加費の公的な補助を期待する。・・・*①

・科目横断的に必要な知識・技能などを養う科目についてのワークショップのIB導入予定校内での開催

←ATLやTOKなど科目横断的に必要な教育方法や科目について、IB導入予定校内の関係教員全員を対象に体系的に実施する。これを日本語で実現するために必要となる指導員と教材の開発を促進する（IB機構などに依頼する。）・・・*②

・国際バカロレア教員養成コースの地方中核大学での設置要請

←地域の教育学部を持つ中核的な大学に国際バカロレア教員養成コースの設立を求める。コースはIB教員の養成に貢献するばかりでなく、附属学校においてPYP、MYP、DPに関連した教育が導入される。地域の教育系の大学の取り組みは、IB教育の草の根的な普及を促すものであり、実行計画をコンソーシアムで立案し、文部科学省には政策的な対応を依頼する。

<事務局案>

*①-IBENメンバー（WSLならびにSVTMの養成）の養成活動（←IB機構との連携）

ーオンラインによる日本語ワークショップの推進（←IB機構への要請）

*日本語によるオンラインWSを促進することで、参加者の旅費負担も軽減できる

*②コンソーシアム協力校・機関へIB関連の教材共有の協力願い（AC上での教材共有）

分科会5：企業家の視点からグローバル人材の必要性

<分科会で挙げられた課題解決のための具体的な方策>

- ・本質を見極める能力の育成
- ・問題発見・課題設定能力の育成
- ・グローバル・マインドセットの育成
- ・変化に対する柔軟性
- ・つながり、統合する力の育成
- ・グローバルに通用するコミュニケーション能力
- ・高い自己規範と哲学

<事務局案>

- ・IB修了生が活躍するグローバル人材のキャリアパス事例共有（イベント・シンポジウム等での登壇）
- ・協議会で指摘されたグローバル人材としての資質能力の多角的検証（対象：IB修了生）